



頼原の街中を行進

地域の安全・安心を守る 消防出初

令和2年消防出初式を頼原地区で開催し、195人の消防団員が出動しました。
初めに、町長に出動人員を報告し、昇格者・任命者に辞令を交付。その後、沿道の皆さんの声援を受けながら、分団ごとに隊列を組み、頼原連担地を力強く行進しました。式典では、各種表彰などを行いました。

1/12
日



澤田団長

澤田秀樹団長は、「昨年は台風15号や超大型の台風19号などによる災害が全国各地で発生しました。災害はいつでも発生してもおかしくありません。団員が一致協力して、町民の皆さまの安全・安心を確保できるように、団員諸君の協力をお願いしたい」と訓辞を述べました。

長谷営農組合が認証されました 「美味しまねゴールド」

「安全でおいしい」を兼ね備えた産品を生産する生産者・生産方法を島根県知事が認証する「美味しまねゴールド(美味しまね認証上位基準)」を(農)長谷営農組合が飯南町で初めて取得しました。米で取得
組合長の三原重人さんは「上位基準の認証取得にあたって組合員に苦勞を掛けました。飯南町で初といってもまだまだ勉強中の身。これから組合員と一緒に、安全でおいしいお米を消費者に届けたい」と話していました。

1/17
金



石橋洋司さん(左)、三原重人さん(中)、永田隆さん(右)

みんなで灯そう スノーキャンドル

1/19
日



ペットボトル®を並べた文字が会場を照らしました(道の駅とんぼら)

「道の駅掛合の里」から「JR三次駅」までの国道54号沿線で「みんなで灯そう スノーキャンドル」が開催され、期間中温かなあかりが灯りました。
「寒さを感じる時期だからこそ、温かい人と人との繋がりを大切に感じる機会をつくりたい」という想いから企画されているこのイベント。いずれの会場も雪不足に悩まされましたが、工夫を凝らした企画で人と人との繋がりを感ぜられる機会になりました。

新たなビジネスの創出に ビジネスプランコンテスト

1/8
水

●【優秀賞】
デザインの「力」で地域の魅力を磨く。地域密着型「街のデザイン屋さん」さん
●【提案者】
LBS合同会社 吉本よし子さん
(代表、吉本拓也さん)



吉本よし子さん(左)と吉本拓也さん(右)

吉本さんは、デザインコンサルティング事業やECショップ運営事業など、デザインと町内の地域資源を結びつけるプランを提案。プランの実現性、町内商品の付加価値向上や新たな価値の創出など、町内における波及効果が大きい点が高く評価されました。

吉本さんは「長年、東京で培ったデザイン業とライター業を新たな形で地域に生かすことを考え提案しました。企画段階から地域の方と話し合いながら商品をつくり上げていきたい」と話していました。

ビジネスプランコンテストとは？

町内で起業を考えている人を応援するため、平成27年度から町が毎年実施。これまでに9件の応募があり、自然を活用したガイド業や農産物加工業など、町内の新たなビジネスの創出につながっています。

■問合せ
産業振興課
電話76.2214

小さな一歩が未来をつくる ヒトカラココカラ会議

2/2
日

昨年9月から始まった飯南町未来の人材育成塾「共創デザインスタジオ」ヒトカラ・hicolor(イイナ)「(全6回。その集大成として、塾生が飯南町で実現したいアイデアを発表する最終回が、中山間地域研究センターで開催されました。
当日は、塾生や一般参加者など約40人が参加。二重の円になつてぐるぐる回りながら順番に言葉を交わす「トークフォーカダンス」と呼ばれる交流を行った後、和やかな雰囲気の中、発表が始まりました。



提案されたアイデアを参加者がさらに磨き上げ



「ヒトカラ同想会」グループは紙芝居形式で発表

発表では、規格外のさつま芋を飯南町の名産にする「hicolor(イイモ)から始まる町おこし」(以下、イイモカラ、車好きが愛車を持ち寄り展示する「car meeting in 飯南」、ヒトカラ人(ヒトカラ卒業生)の交流の場「ヒトカラ同想会」の3つを塾生が提案。イイモカラを提案したグループは、芋を使ったパイやスムージーなどの試作品を参加者に振る舞うなど、すでに小さな一歩を踏み出しているグループもありました。